

# 東洋特殊鋼業が新製品

## ユーザーの コスト削減 溶接工程を簡素化

### ステンレス角形鋼管

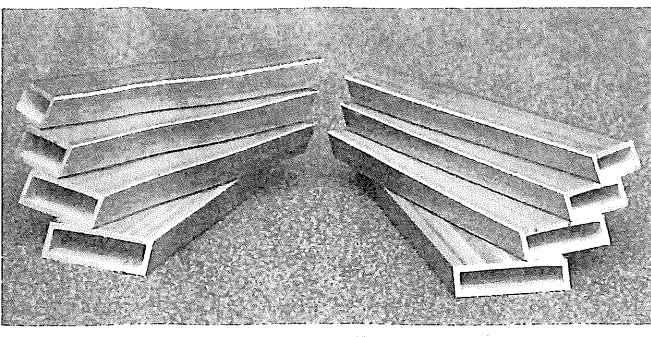
鋼管加工專業メーカーの東洋特殊鋼業（本社大阪市西区、武藤賢一社長）はこのほど、独自技術を駆使したステンレス角形鋼管「シャープエッジ（TTRK-304S）」を開発した。軽量で管の角部が鋭く意匠性に優れていることが特徴として挙げられ、ユーザーのコスト削減や溶接工程の簡素化を実現。ステンレス平鋼の代替製品として需要を見込んでおり、7月から本格的に生産・販売を進めていく。

は高さ12ミ、16ミ、19ミの3シリーズで構成され幅は50ミから77ミまで。いずれも板厚が3ミで角部の寸法1ミ以下、定尺4ミとな

手すりや取っ手、面格子といった建築装飾用金物、工場内のライの架台、モニユメントやシェルターでの採用を狙っている。これらの分野は大抵はステンレス平鋼で賄えるが、重量がある平鋼で

自のロール成形技術を活用し、コーナーエッジが小さい板厚3・0ミのステンレス角形鋼管の開発に踏み切った。その間、都祁事業所（奈良市上深川）の設備を増強するなど商用化に向け開発を進

め、昨年末に完成。既に数件の採用がある。三濱善嗣取締役副社長は、「中空・軽量化によるコスト削減や、角部が小さいため溶接加工の簡素化に貢献できるのでは。意匠性にも優れており、東京五輪開催に向け都市開発が進む中で、地道に販売量を伸ばしていきたい」と言う。シャープエッジは従来品と同じく、都祁事業所に在庫し販売する。7月から本格的に拡販を進め、中期的にはサイズアップの拡充を図る。



軽量で意匠性に優れた「シャープエッジ」

手すりや取っ手、面格子といった建築装飾用金物、工場内のライの架台、モニユメントやシェルターでの採用を狙っている。これらの分野は大抵はステンレス平鋼で賄えるが、重量がある平鋼で